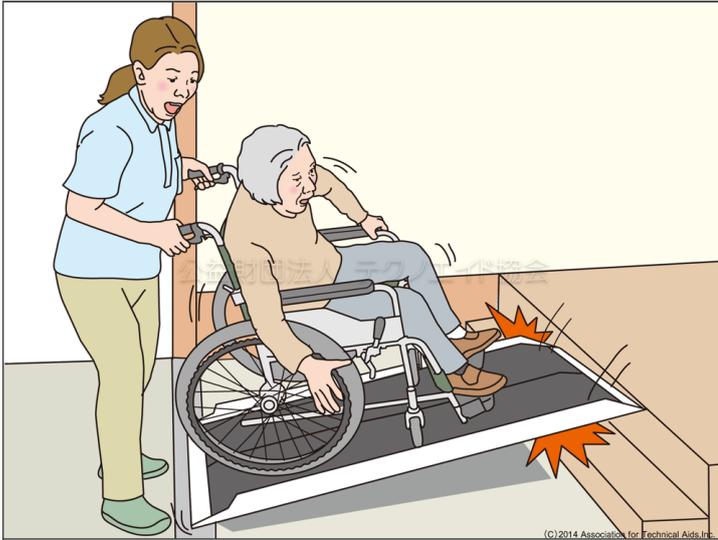


Case : 301

側壁に車いすのキャスターが接触し、操作に手間取っていたら突然スロープが段から外れ、落下してしまふ

場面の説明

段差を降りようと可搬型スロープを設置し、後ろ向きで車いすを操作していたが、中ほどでキャスターが側壁に接触し、無理に動かそうとしたところ、スロープがズレ、段差から落下してしまった



利用シーン	 移動  階段の昇り降り
主な利用場所	 玄関  段差・縁石
介護保険の種目	 スロープ
分類コード (CCTA95)	183015 (携帯用スロープ)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

「無理に引っ張る」などの力ずくの介助は、しばしば事故の原因になっています。このケースでもキャスターが接触した後に、落ち着いて再度少し前進させてからスロープの真ん中に戻ることで安全に下りられたと考えられます。また、スロープの角度が介助者の体力に見合うゆるかな角度であったのかも確認する必要があります。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：引っ張ればなんとかかなと思ってしまった
- 人：キャスターの向きを修正するために車いすを少し上に戻すだけの力がなかった
- モノ：スロープが短く、角度が急だった
- モノ：スロープに適正な段差へのかけ幅の表記がなかった
- 環境：段鼻の床面が滑りやすかった